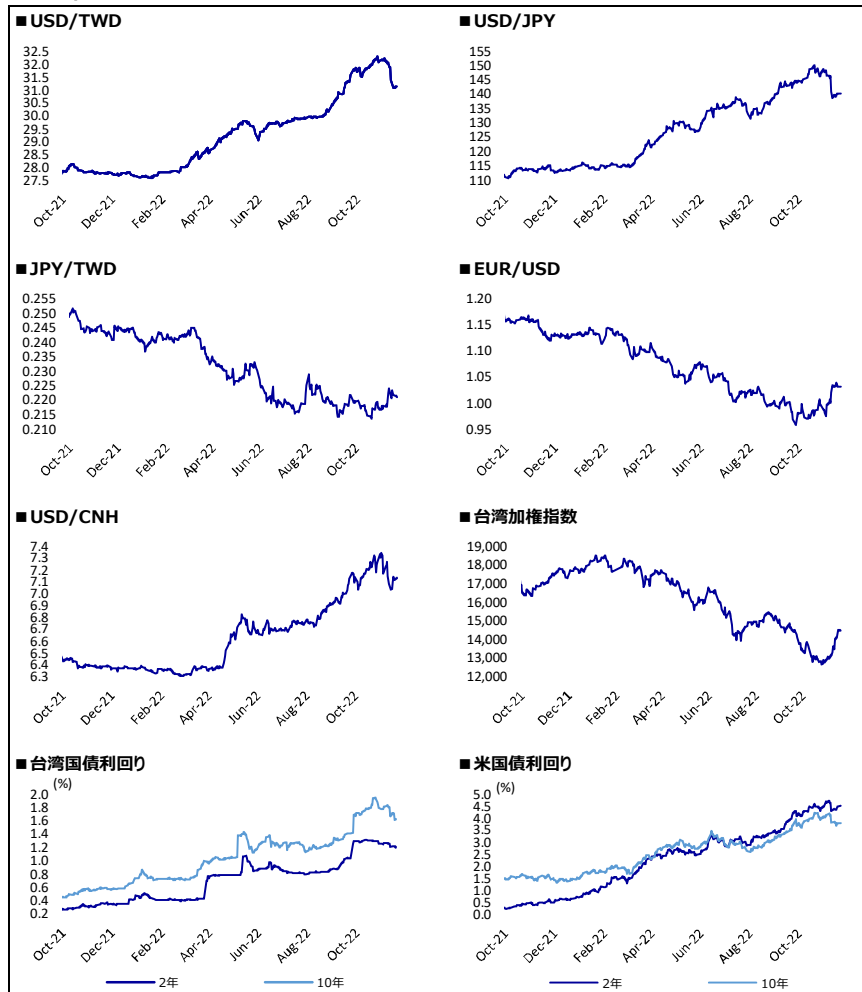


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは下落。週初11/14は31.370でオープン後、米CPI発表後の株高の流れが続き、外国人投資家の台湾ドル買いが続き、31.00近くまで下落すると反発し31.1台に戻した。11/15も台湾株が大幅に上昇する中、台湾ドルも一時31.021まで下落し、その後も底堅く推移。11/16は米CPIの影響を受けた資金流入の勢いも落ち着きつつある中、NATO加盟国のポーランドにミサイル着弾との報道からリスク回避の動きもあり、台湾ドル高の流れは止まり、レンジでの推移となった。11/17は外国人投資家が台湾株を売り越しに転じたことから台湾ドル売りも入り、31.1台のレンジでの推移となった。11/18は台湾の国内投資家のドル買いフローと外国人投資家の資金流入が相殺し、方向感のない展開となった。最終的に先週比0.8%ドル安台湾ドル高の31.170で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式買い越し額は782.6億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は上昇。週初11/14は138.60でオープン後、先週からのドル売りの流れがあるものの、約2か月半ぶりの円高を受けドルが買われると139円台に戻し、クロス円で円安が進行すると一時140.79まで上昇。しかし、ブレイナードFRB副議長が利上げペース減速を示唆したことを受け、米金利が低下する流れにドル円も140円を割り込んだ。11/15は米10月PPIが発表されると前週のCPIに続き予想を下回ったことから、ドル円は一時137.67まで下落したが、すぐに139円台半ばまで戻した。その後、NATO加盟国であるポーランドにミサイルが落下との報道を受け、リスク回避の動きからドルと円は共に買われやすく、レンジでの推移に。11/16は米10月小売売上高が予想を上回ると一時140円台に上昇する場面も見られたが、米長期金利が低下すると再び139円台前半まで下落。その後はFED高官の発言が相次ぐが、タカ派な発言は見られず上値は重く推移。11/17はブラッド・セントルイス連銀総裁からのタカ派発言を受け、米金利が上昇するとドル/円も140.72まで上昇。11/18は実需のドル売りから140円台を割り込んだものの、コリンズ・ボストン連銀総裁から追加利上げの可能性の言及があったことや米金利の上昇につられて、ドル円も切り返し、最終的に先週比1.2%ドル高円安の140.40で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：31.050-31.300
米10月CPIの結果を受けた資金流入からの台湾ドル高が一服しており、今週はレンジでの推移を見込む。ただし、FOMC議事録の発表を控えており、米国の追加利上げへの警戒感が高まる流れには注意したい。

■ USD/JPY 予想レンジ：138.50-143.00
今週はFOMC議事録の発表を控えている。米10月CPIは予想以上に低下したものの、依然高い水準にあり、物価動向による次回12月利上げ幅への議論に注目したい。12月の利上げ幅を0.75%と織り込む動きが強くなれば、再びドルが買われやすくなるであろう。

今週の予定

11/21 (MON)	台湾10月輸出受注、台湾3Q経常収支
11/22 (TUE)	台湾10月失業率
11/23 (WED)	米10月耐久財受注、米11月製造業/サービス業PMI、米10月新築住宅販売件数、米FOMC議事録
11/24 (THU)	
11/25 (FRI)	

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。